

【活動レポート】5/26 VOLAS 学習会「国際協力の現場と学生ができること」



今回の日下部先生のお話を聞いて、私はまず「物をあげる国際協力は成り立たない」という点に衝撃を受けました。シャプラニールがバングラデシュの子どもたちは無償で文房具を送ったところ、次の日には村の市場でほぼ全ての文房具が売られていたそうです。今まで国際協力とは無償で行うべきものだと私は考えていましたが、現地の人々が経済的に自立するためにはむしろ逆効果であり、低額で支援物資を買い取ってもらうなどの場合に応じた様々な方法で支援を行う必要があるのだと実感しました。

学習会の全体を通して感じたことは、現地の人々と同じ目線に立って、協力しあうことの重要性です。シャプラニールはバングラデシュでの支援を続けているうちに家事使用人として働かされている少女の問題に直面し、彼女たちの解放を求めて現地の人々と協力して支援や政府への働きかけを行ったそうです。国際協力において最も大切なことは、支援している人々をよく理解し、一方的に何かをしてあげようという意識ではなく、彼らと同等の立

場になって協力しあい、社会を変えようとする意識を持つことなのだと考えました。

最後に、国際協力について学ぶためには現場を知ることが第一だと日下部先生はおっしゃいました。国際協力の現場をよく理解せずに支援することは不可能だと私自身も考えています。そのために、NGOの国内インターンなど、今の自分に出来ることから始めることが重要なのだと思いました。私も第一歩として、まずは国際協力の現場を理解することから始めてみます。

(国際社会学部フランス語2年 荒木大岳)

日時: 2016年06月03日